

日本史

1

解答

問1. オ 問2. イ 問3. エ 問4. ウ 問5. ア
問6. ウ 問7. イ 問8. エ

解説

《古代の文化》

問1. 仏教公伝の年代は、『上宮聖徳法王帝説』『元興寺縁起』によれば538年、『日本書紀』によれば552年のこととされており、前者の方が有力である。

問2. ア. 誤文。「夢殿や五重塔」があるのは法隆寺である。また、法隆寺夢殿は飛鳥文化期ではなく天平文化期の建築物であるため、時期も誤り。
ウ. 誤文。「百済観音像」が誤り。法隆寺金堂の本尊は釈迦三尊像である。
エ. 誤文。「飛鳥寺」が誤り。中宮寺に天寿国繡帳の断片が現存している。

問3. エは白鳳文化期の薬師寺金堂薬師三尊像の一つである薬師如来像の写真である。アは天平文化期の興福寺阿修羅像、イは飛鳥文化期の法隆寺夢殿救世観音像、ウは飛鳥文化期の飛鳥寺釈迦如来像の写真である。

問4. 史料は、聖武天皇が743年に発布した大仏造立の詔の一部。ウ. 誤文。史料文6行目の「聴せ」は、「ゆるせ」と読み、「許可してやりなさい」という意味である。聖武天皇は信仰をおなじくする集団の力による大仏造立を理想とし、僧俗貴賤が自発的に協力することを望んだ。

問7. ア. 誤文。弘仁・貞観文化期の彫刻技法は一木造である。国風文化期に、定朝によって一木造に代わる寄木造の手法が完成した。

ウ. 誤文。「寺門派」と「山門派」が逆。10世紀末以降、延暦寺の円仁の門流は山門派、園城寺の円珍の門流は寺門派と呼ばれ、両派は対立した。

エ. 誤文。『文鏡秘府論』が誤り。弘仁・貞観文化期の勅撰漢詩文集として編纂されたのは『凌雲集』『文華秀麗集』『経国集』である。『文鏡秘府論』は空海の詩論書である。

問 8. ア. 誤文。紀貫之は六歌仙ではない。六歌仙は平安前期の代表的な歌人 6 人の総称で、在原業平・僧正遍昭・喜撰・小野小町・文屋康秀・大友黒主をいう。

イ. 誤文。「小野篁」が誤り。小野道風・藤原佐理・藤原行成の 3 人の和風能筆家を三蹟（三跡）という。小野篁は、学問をもとに出世した文人官僚。遣唐副使となるが、838 年に大使と良船を争って乗船を拒否し、隠岐に配流されたことで知られる。

ウ. 誤文。「寝殿造」が誤り。平等院鳳凰堂は阿弥陀仏を本尊とする仏堂である。寝殿造は貴族の住宅であり、摂関家の東三条殿が代表例として知られている。

2 **解答** **問 1.** エ **問 2.** ウ **問 3.** ア **問 4.** エ **問 5.** オ
問 6. ア **問 7.** イ **問 8.** ウ

解説

《中世のアイヌと琉球の動き》

問 1. ア. 誤文。漁労・狩猟を生業とし、文様のある土器や鉄器の使用は擦文文化に関する説明である。

イ. 誤文。中世のアイヌ文化では、稲作は行われなかった。

ウ. 誤文。豚の飼育や大陸系の青銅器の使用は弥生文化に関する説明である。

問 3. イ・ウ. 誤文。和人が道南部につくった居住地を^{たて}館といい、その一つである志苔館の付近からは、宋銭・元銭など約 39 万枚の中国銭が出土している。コタンはアイヌの集落である。

エ. 誤文。十三湊は津軽半島（青森県）にあった港で、蝦夷地と日本海海運の結節点として発達した。

問 6. イ・エ. 誤文。高麗で写された経典（大蔵経）や木綿は、朝鮮から日本に輸出された貿易品である。ウ. 誤文。琉球は琉球産の黒糖を日本に輸出した。

問 8. ウ. 誤文。「倭寇の活動が活発になり、朝鮮が対馬を襲撃した」は、1419 年の応永の外寇に関する説明で、15 世紀後半以降の時期の出来事ではないため、誤り。

3

解答

問1. イ 問2. ウ 問3. ア 問4. ウ 問5. エ
問6. イ 問7. エ 問8. オ

解説

《近世の社会・経済》

史料は、1841年に天保の改革で出された株仲間の解散である。

問1. イ. 正文。アは樽廻船，ウは内海船，エは北前船に関する説明である。

問3・問5・問8. 12代将軍徳川家慶のもとで天保の改革を推進した老中水野忠邦は、十組問屋などの株仲間が上方市場からの商品流通を独占し、物価を高騰させていると判断して株仲間の解散を命じた。これにより、在郷商人らの自由な取引による物価引き下げを期待したが、かえって商品流通の混乱を招いた。

問4. ア. 誤文。「元禄期」が誤り。江戸幕府が積極的に株仲間を公認したのは田沼政権からである。

イ. 誤文。「徳川吉宗」が誤り。人参座が設けられたのは10代将軍徳川家治のときである。

エ. 誤文。「設置」が誤り。真鍮座と鉄座は寛政改革の一環として廃止された。

問6. ア. 誤文。高知（土佐）藩では、木材・紙などの専売制の強化が行われた。縮織は米沢藩，鉄は松江藩などが強化した専売品である。

ウ. 誤文。鹿児島（薩摩）藩では、調所広郷が黒砂糖の専売を手掛けた。本多利明は、『経世秘策』『西域物語』を著し、開国交易や蝦夷地開発による富国策を主張した経世家である。

エ. 誤文。萩（長州）藩では、村田清風が紙・蠟の専売制を改革した。和漢薬の専売制を実施したのは富山藩である。

4

解答

問1. エ 問2. ウ 問3. ウ 問4. エ
問5. イ・オ 問6. イ 問7. ア・エ 問8. エ

解説

《犬養毅》

問1. ア. 誤文。明治十四年の政変により出されたのは国会開設の勅諭である。漸次立憲政体樹立の詔が出されたのは、1875年の大阪会議によっ

てである。

イ. 誤文。「フランス型」が誤り。政変により下野した大隈重信が主張したのは、イギリス型の議院内閣制導入である。

ウ. 誤文。薩摩・長州・土佐・肥前の四藩出身者が政府の中核を担ったのは廃藩置県後で、藩閥政府といわれた。

問2. ア. 誤文。1890年の衆議院議員総選挙では、立憲自由党や立憲改進黨など反政府の民党が衆議院の過半数を占めた。

イ. 誤文。「黒田清隆内閣」が誤り。1892年の衆議院議員総選挙では、第1次松方正義内閣のもとで内務大臣品川弥二郎による激しい選挙干渉が行われた。

エ. 誤文。「中選挙区制」が誤り。1920年の衆議院議員総選挙は、選挙法改正により小選挙区制のもとで行われた。

問3. ア. 誤文。長州閥の桂太郎が首相だったときに工場法が公布された。

イ. 誤文。立憲同志会総裁であった加藤高明は、第2次大隈重信内閣の外務大臣として二十一カ条要求を推進したため、立憲政友会総裁の事跡に関わる説明として誤り。

エ. 誤文。田中義一内閣では、田中首相が外相を兼任した。幣原喜重郎は、憲政会・民政党の内閣において外相に起用された。

問4. ア. 誤文。金融恐慌の際、巨額の不良債権を抱えていた台湾銀行を緊急勅令で救済したのは田中義一内閣である。

イ. 誤文。「即時承認した」が誤り。犬養毅内閣は、欧米列強の批判に配慮して満洲国の承認に慎重な態度をとった。

ウ. 誤文。犬養内閣の高橋是清蔵相は金輸出を再禁止し、日本を管理通貨制度に移行させた。金輸出を解禁したのは浜口雄幸内閣の井上準之助蔵相である。

問5. 下線部(a)・(c)・(d)の事象は、犬養毅についてなされる評価の①と④の前半部分に該当する。

問6. ア. 誤文。清朝最後の皇帝であった溥儀は、1934年に満洲国の皇帝に即位している。

ウ. 誤文。日本陸軍が2個師団の増設を強く求めたのは、南満洲・内蒙古の権益を確保するためである。

エ. 誤文。北清事変(1900年)は、辛亥革命(1911年)よりも前の出来

事であるため誤り。

5

解答

問1. イ 問2. ア 問3. エ 問4. イ

解説

《冷戦期の世界》

問2. イ. 誤文。中国はインドとともに「平和五原則」を打ち出したが、核開発は放棄せず、1964年に原爆実験に成功、核保有国となった。

ウ. 誤文。「国連加盟国すべて」が誤り。1968年の核拡散防止条約（NPT）では、国連加盟国である米ソ英仏中以外の核保有が禁止された。

エ. 誤文。国際原子力機関（IAEA）は、アメリカ大統領アイゼンハワーによる国連総会の演説「平和のための核」をきっかけに設立された。

問3. 送信先のソ連指導者はフルシチョフである。

ア. 誤文。フルシチョフは初めてアメリカを公式訪問したが、アメリカ大統領アイゼンハワーとの会談はキャンプ＝デーヴィッドで行われた。マルタ会談は1989年のブッシュ（父）とゴルバチョフによる。

イ. 誤文。ソ連は非同盟諸国会議には不参加である。

ウ. 誤文。チェコスロヴァキアで1968年に起こった民主化運動「プラハの春」を軍事力で鎮圧させたのはブレジネフである。

問4. 難問。A. 日本がソ連と国交を回復した日ソ共同宣言は1956年で、日本はこれにより国連加盟を果たした。B. 日中共同声明で中国との国交が回復したのは1972年。C. 日米新安全保障条約（日米安全保障条約改定）は1960年に成立した。D. 日韓基本条約は1965年に結ばれた。よってイ。A→C→D→Bが正解。